

白山ふるさと文学賞

第八回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 優秀賞

# ぼくの将来の夢

明光小学校六年

濱中 はまなか

翔 しょう

ぼくの将来の夢は、警察官になることです。

最近では、交通事故や傷害事件、そして殺人事件と、毎日当たり前のようにニュースで警察官の仕事を見るようになりました。

警察官が犯罪者を取りしめる姿をテレビでもよく見ます。ぼくは、「警察官ってすごいな、カッコイイな」と思うようになり、いつの間にか、正義感の強い警察官にアコガれをもつようになりました。

警察官になるためには、どうすればいいのかを調べてみました。正直、ぼくは、警察官の仕事は悪い人をつかまえるだけかと思っていました。でも、警察官にはいろいろな仕事の内容があることが分かり、ぼくの好きなマンガに出てくるような仕事もありました。そして、警察官のみ力を三つ見つけました。

まず、犯人の証こを見つけて事件を解決する、刑事警察の仕事があります。殺人事件などでは、事件解決のためにどんな小さな物でも見落としてはいけません。とても地道なことから、犯人につながる証こを見つけてが必要だそうです。とてもにんたい力が必要で、体力も必要だと思いました。殺人事件だけでなく、銃をかくしもっている人や、悪い薬を売る人などを退治することや、テロ事件で解決のために動くのも刑事警察の仕事だそうで、危険で大変な仕事なんだと思いました。また、台風や地震などの災害がおきた場合にも活やくしているのは刑事警察だと知りました。事件や災害などで、たくさんの日本の人々の安全を守っていることがすごいなと思います、み力を感じました。

次に、交通事故を防止するために活やくしている、交通警察があります。最近、小さな子どもが、ぎせいになる悲しい交通事故がたくさん起きています。車のあおり運転や暴走運転など、交通規制を違反する運転のニュースをたくさん見ます。大人は車を運転するときにもっと安全を心がけてほしいと思います。こういった交通違反やルールを守らない人たちをつかまえる。パトカーや白バイに乗っている警察官にもアコガれます。少しでも交通事故を防ぐために、死亡事故を一つでも減らすために、

違反者を絶対に逃さないという交通警察の姿を見るたびに、夢中になってしまいます。道路の平和を守っている交通警察もかっこよくみ力を感じます。

事件が起きたら刑事警察の人が来てくれます。しかし、ぼくは刑事警察の人と直接関わったことはありません。ぼくは運転免許をまだ持っていないので、交通警察の人と関わることもあまりありません。ぼくが一番身近に見ることができる警察官は、地域の安全を守っているおまわりさんです。

交番やちゆう在所にいるおまわりさんの仕事は、パトカーに乗って町の安全を守ることです。身近な事件や事故では、1番にかけつけてくれます。ボランテニアや防犯のイベントなどでも活やくしています。おまわりさんは、困っている人がいたら助けてくれる、ぼくたち子どもにとってもみ力的です。ぼくたちを一番身近で守ってくれるのが、と

ぼくが警察官になったら、最初は地域の安全を見回るおまわりさんになりたいです。生活の安全を守ることが警察官のスタートになるといいなと思います。

ぼくは、警察官になるために必要なことや大切なことを、あまり知りませんでした。ただぼくは、じゆう道やけん道をしなくてはならないということだけは知っていました。でも、なぜしなくてはいけないかは知りませんでした。警察官は、悪い犯人を取りおさえることもあるので、体力や冷静さが必要となります。じゆう道やけん道には、その大切なことが学べる力があるそうです。警察官の仕事をたくさん調べることによって、なぜ必要なのか分かりました。中学に行ったら、この大切なことを学べるじゆう道やけん道を習ってがんばりたいと思います。

困っている人たちの役に立ちたいという警察へのアコガれの気持ちをいつまでも強く持ち続けていきたいです。人々が、安心、安全に暮らしている世の中に、少しでも役に立ちたいという正義感をもちたいと思

います。

ぼくが、今、できることは、困っている友だちがいたら進んで助けに行くことです。そして、出会ういろいろな人たちに、自分からあいさつをしていきます。自分ができることを少しずつ見つけて、どんどんチャレンジしていきたいです。

警察官への道は難しいと思いますが、一生けん命に努力できる人になって、警察官になって、地域の人を守っていきたいです。

